重茂ワカメ 喜びの収穫

宮古

船を共同で使う新方式で天然ワカメを採る漁業者。ワカメを引き上げる腕にも力がみなぎる＝21日午前５時38分、宮古市重茂

大漁スタートに活気 共同で震災後初

宮古市の重茂地区で21日、震災後初の漁となる天然ワカメ漁が口開けされた。重茂漁協（伊藤隆一組合長）が漁船の大量流失などを受け打ち出した共同運営方式が初めて実施されたが、55トンの水揚げと大漁スタートとなった。ワカメの生育も良く、震災で大きく傷ついた浜に久しぶりに活気がみなぎった。海の状況が良ければ、22日も行われる。

漁船数が不足しているため、今回はサッパ船と呼ばれる小型漁船1隻につき数世帯が相乗りし、68隻が出漁。午前5時から3時間制限の漁を一斉に開始した。漁業者は箱眼鏡で海中をのぞきながら長さ3㍍を超えるさおの先に取り付けたかまで根元を刈り取り、船上に力いっぱい引き上げた。

ワカメが岸壁に水揚げされると、待ちかまえていた組合員の家族らが車座になり不要部分を切り落とす。湯通しすると、鮮やかな緑色に変わり、作業する漁業者の表情もほころんだ。

相乗りで漁をした同市重茂の漁業伊藤虎男さん(49)は「初めてのやり方だったが、協力してうまく漁ができた」と話し「ワカメは長さ2・5㍍もある立派なもの。よく津波に耐えた。漁師だから、海の上はやはりいい」と充実感に満ちた表情を浮かべた。

浜で作業を見守った伊藤組合長は「皆生きいきしているようだ。狙い通り」と目を細めていた。

重茂地区では、震災前814隻あった漁協所属船が、津波で14隻まで減った。これまでに北海道、秋田など県外から中古船を購入したほか、使えそうな船を回収して修理、新規発注もして約200隻を確保するめどが立った。

漁船はいったん漁協に集約後、地域ごとに割り当てる。収穫作業などの仕事を分け合い、利益も分配する。

震災理由に1億円未払い

東京の派遣会社　全国千人分の賃金

東京都目黒区の人材派遣会社が、東日本大震災の影響で金融機関からの資金繰りが一時的に厳しくなったなどとして3月中旬以降、約千人の派遣労働者に対し総額約1億円の賃金が支払われていないことが21日、分かった。

この会社の本社は、共同通信の取材に「何も答えられない」としたが、ある地方の事業所は「賃金支払いが滞っている」と認めている。労働者から相談を受けた品川労働基準監督署が調査、5月に入って全額払うよう会社に是正勧告した。

震災をきっかけに労働条件が悪化した人たちでつくる労働組合「震災ユニオン」（東京）が20日、会社と団体交渉を始めた。この会社は、クレジットカードやケーブルテレビの勧誘、菓子販売などの会社に労働者を派遣。賃金は毎月15日と末日に支払ってきた。

ユニオンなどによると、会社側は震災後、「震災の多大な影響で、金融機関からの資金入手が一時的に困難になっています」「大災害時の一時的な混乱」と書かれたメールを派遣労働者に送付。

団交で会社側は、本社のほか、札幌、仙台、新潟、静岡、名古屋、大阪の各市にある事業所で未払いが発生し、5月15日時点で総額が約1億円に上ると説明。3月以降の賃金で、遅れたものの支払われた分もあった。

担当者は「一刻も早く払いたい」と話したという。

「希望のめおと松」力強く

クロマツのうち2本だけ残った「めおと松」＝田野畑村明戸

田野畑・明戸 津波に耐え住民へ勇気

津波で防潮堤が破壊された田野畑村の明戸地区。防潮堤より陸地側にある明戸キャンプ場そばの防潮林もほとんどが流失したが、クロマツは2本が残った。地元住民からは「希望のめおと松」と呼ばれ、復興のシンボルとなっている。

明戸浜に面した同地区は防潮堤が津波で破壊され、防潮林として整備された数百本のクロマツなどが流された。しかし、南側の県道に面した位置に2本のマツとケヤキ1本が津波に耐えて残った。高さ十数㍍のマツは2本寄り添うような姿から、地元住民から「めおと松」と呼ばれている。津波で周辺はさら地と化し、木の表皮は波で洗われて一部剝がれている。それでも、上部には濃い緑色の葉が残るなど力強い姿を保っている。

明戸自治会の道合勇一会長(71)は「よくぞ残ってくれた。くじけそうになることもあるけれど、このマツが耐えているのだから踏ん張ろうと勇気が湧いてくる」と復興への意欲を燃やしている。

従業員殺害し保険金詐取

元経営者ら容疑で逮捕　自殺装い2000万円

千葉

千葉県松戸市で2009年4月、会社員阿曽久好さん＝当時(52)＝を首つり自殺を装って殺害し、生命保険金約2千万円を詐取したとして、警視庁捜査1課は21日、殺人と詐欺の疑いで、元合鍵製造会社経営西村豊容疑者(56)＝服役中＝と、千葉県船橋市の元会社役員工藤隆容疑者(49)の2人を逮捕した。

捜査1課は、会社の資金繰りが苦しかったことなどから、2人が保険金目的で従業員の阿曽さんを殺害したとみている。

西村容疑者は「殺す計画は立てたが、殺してない」と否認し、工藤容疑者は容疑を認めている。

逮捕容疑は、09年4月20日、松戸市金ケ作のアパートで阿曽さんの首をロープのようなもので絞めて殺害し、阿曽さんに掛けた保険金約2千万円をだまし取った疑い。

捜査関係者によると、西村容疑者が07年11月、無断で阿曽さんに成り済まし、会社が受取人の生命保険に加入していた。

阿曽さんはアパートで首をつった状態で死亡しているのが見つかった。工藤容疑者が第一発見者を装って110番し「借金で悩んでいた」などと説明。遺書のようなものもあったため、千葉県警は自殺と判断し、司法解剖していなかった。

阿曽さんは「小島」姓だったが、06年1月に西村容疑者の会社に入社後、同容疑者の知人女性と偽装とみられる結婚、離婚を繰り返し「高橋」姓を経て、08年12月に「阿曽」姓になっていた。

西村容疑者は06年9月に「高橋久好」として免許証を取得。阿曽さんには「吉田誠」を名乗らせていた。捜査1課は、西村容疑者が03年に自分が病死したとする偽の死亡診断書で保険金約9千万円を詐取していたため、別の名前が必要だったほか、阿曽さんの名前を変え、借金を重ねさせた疑いがあるとみている。

西村容疑者は昨年、03年の事件で警視庁に逮捕され、今年3月に懲役7年の実刑判決が確定して服役中。周辺捜査で阿曽さんに掛けられた不自然な保険金が浮かび、警視庁などが捜査していた。

長門裕之さん死去

77歳　名脇役

数多くの映画、テレビドラマに出演、高い演技力で存在感を見せた俳優の長門裕之（ながと・ひろゆき、本名加藤晃夫＝かとう・あきお）さんが死去したことが21日、分かった。77歳。京都市出身。

弟は俳優の津川雅彦さん、妻は2009年に亡くなった女優の南田洋子さん。

1940年、6歳のとき映画「続清水港」でデビュー。56年に南田さんと共演した「太陽の季節」で主役の青年を好演、人気を集めた。

今村昌平監督の「にあんちゃん」や「豚と軍艦」などに主演、悲哀とユーモアを感じさせる演技派として活躍。その後も映画「日本侠客伝」シリーズ、「赤ちょうちん」、テレビドラマ「池中玄太80キロ」「おていちゃん」など数々の作品に出演、名脇役として重要な役どころをこなした。

南田さんとは、おしどり夫婦として知られ、音楽番組「ミュージックフェア」の司会を2人で65年から約16年間務めた。

南田さんが認知症であることを2008年にテレビ番組で公表、介護の様子が放送され話題になった。

ニュースファイル

◆盛岡の90戸停電　21日午後2時49分ごろ、盛岡市新庄中津川、簗川の90戸が停電。午後6時40分までに復旧した。強風によって倒壊した樹木が高圧配電線に接触、漏電した。（東北電力盛岡営業所調べ）

◆暴行容疑で男逮捕　盛岡東署は21日、暴行の疑いで、滝沢村鵜飼字鬼越30の4、会社員千葉寛貴容疑者(38)を現行犯逮捕した。

逮捕容疑は同日午前0時ごろ、盛岡市大通の飲食店前で、店を閉めようとしていた従業員男性(24)を壁に押しつけるなどした疑い。同署によると、千葉容疑者は酒に酔っていたという。

◆発見遺体の身元確認　盛岡市の北上川で20日、遺体で発見された男性は盛岡東署の調べで21日、同市の無職(67)と判明した。親族が確認した。司法解剖の結果、死因は水死だった。

同署が引き続き、川に落ちた状況について調べを進めている。

この紙面の著作権は岩手日報社が保持しています。無断転載、複製及び配布は禁止します。